観察のまど
子どものにわ (4)
砂上史子

三歳児のごっこ遊びにおける場づくりの援助
幼児期の遊びの中でも、自分の場所を想定したりして遊ぶごっこ遊び、 Mixing
は異なる別の人物になりきった場所において、子どもが『主人公』として自らの
人生を舞台にしたごっこ遊びをすることを『観察のまど』という。その観察のまどにおける場
づくりの援助のあり方について考えてみた。

戦いごっこと病院ごっこを
行ったり来たりしながら遊ぶ

図1は、三歳児クラス、十一月の保育室での病院ごっこその事例で

ことがあります。Fくんと呼ばれるのちの保育室に

Yちゃんたちの二つの病院があり、Fくんのお面と付けて生っているので、病

院とヒーローという二つのイメージ

- 30 -
先生に「ぴょういん」の
貼り紙を書いてもらう

図1では、「Fくん、Yちゃんた
ちの病院に「ぴょういん」な
らでもいいじゃないか。」

でもいいじゃないか。」

先生に文字を書いてもらう

という三歳児は、先生に文字を書いて
もらうため、それを自分たちのごっこお
かじをさんざなな形で援助して
いきます。
何であるかを示すことは、その場で何をしているか、そのために
わからること。それは、本当に子どもたちのイメージを了解して
遊びの場を、それがどのような意味をもっているのかの目で見つかる
遊びの場に込められたイメージや感じは、最初から子どもたちが抱いて
いてくれる先生、という存在を必要とする考えである。子どもたちの中には
重要な援助があるという舣い、遊ぶために必要な存在であるといえます。

細かかたわりを持って遊ぶ

「悪い人は入っちゃだめだ」と

など、先生に言っているよ

に、子どもが自分自身の遊びの根拠
関係が深まり、ごっこ遊びの経験
の存在を意識したものになっている
いうことがわかります。

「ああだわい、こうしたい」と

や、子どもが言うように、遊び
のこだわりを伝え合っていくこ
とが、人とのかわり合いかわり
どうすればいいかぼしんで、何か

遊びの援助として子どものイ
「さりげなく、言葉遣いや
振る舞いの感覚を養う」

「さりげなく、言葉遣いや、振る舞いの感覚を養う」というイメージをもつものである。

「さりげなく、言葉遣いや、振る舞いの感覚を養う」は、子どもたちが自然に形成する能力で、大人の注意が必要である。

「そうですね、大分違うのでは、子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の視線が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「ええ、その通りですね。子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「その通りですね。子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「ええ、その通りですね。子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「そうですか。子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「ええ、その通りですね。子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。

「そうですね、子どもたちの言葉遣いや振る舞いは、大人の注意が外れた瞬間、自然に現れるものである。
先生のちょっとした
がわりで遊びが展開する

ごっこ遊びは、主にイメージの

世界で子どもたちが何らかの役

イメージ世界を自由に楽しみま

す。しかし、ごこ遊びだからと

ってどのような表現でも許され

るわけではない。むしろ、ごこ

この世界にふさわしい言葉遣

いや振る舞い方を、その役になり

きにして、そのふりをすること

が楽しみの一つです。また

「病院」「戦い」などのイメージ

はあっても、具体的なふりの中で

それを表現していいくことは、子

どもにイメージの世界に入り込

むことで、子どものごっこ世界

をより豊かにしていけるのでな

いでしょうか。

そんなときに、図1の中で先生

が「うさぎさん、元気になって

た豬たかいさん、元気になって

たעובえる」と下に声をか

けたり、「ピーマーーピーマーーピー」と

段ボールの救急車に乗って、カメ

のぬいぐるみ（新しい患者）を

持ってきたとしているように、先

生のちょっとした言葉かけや動き

が、病院ごっここのイメージをつな

ぐ、子どもの次の動きを生み出し

ます。そのようなときに、場や道

具などの目に見えるもので子どもの

イメージを支えると共に、それを使

った言葉と動きのきっかけを、保

育者が投げかけていくことが大

切になると思います。そのために

は、図1の先生のように、ごっこ
の外側と内側を行き来つつ、子ど
どもと共にごっこを楽しむ姿勢が

重要になるのだと思います。

千葉大学 教育学部 保育学

保育内容と発達との連関を研究

- 35 -